

武部勤のアジアの未来図



武部 勤氏 略歴

前衆議院議員(8期)。農林水産大臣(第33代)、自由民主党幹事長(第39代)、衆議院議院運営委員長(第63代)を歴任。

議員時代にベトナム友好議連会長、インドネシア友好議連会長、メコン友好議連会長、モンゴル友好促進議連会長、パーレーン友好議連会長を務めたほか、今年3月1日には社団法人日本ベトナム経済フォーラムの名誉会長に就任するなどアジアを中心とする諸国との友好に尽力。このほど一般財団法人「東亜総研」を設立し代表理事に就任。

チュオン・タン・サン国家主席が来日 日越関係が「晴雨同舟」となることを希望して

チュオン・タン・サン国家主席が3月16日から19日まで国賓として来日された。7年ぶりのベトナム国家主席の国賓訪日であり、2013年の「日越友好年」を機会に両国関係が強化された流れを受けたもので、将来に向けさらなる関係強化を確認する機会となった。

18日の安倍晋三総理大臣との会談では、安全保障や巡視船供与、5案件に対する1,200億円にのぼる円借款で合意したことなどが大きく報じられたが、もっとも重要な事柄は両国関係を「広範な戦略的パートナーシップ」として発展させていくことで合意したことだろう。両国は新たな協力関係の次元へと進むことになったのである。もちろん「日越大学構想」である。私は日越友好議員連盟主催の朝食会のほか宮中における晩餐会、安倍首相夫妻主催の晩餐会、迎賓館での駐日ベトナム大使ドアン・スアン・フン氏主催の懇親会に出席し、様々感じるがあった。今号では、そうしたことを含めサン国家主席訪日に関する所感を報告したい。

サン国家主席との思い出など 「親友」と呼び合う仲

その前にサン国家主席との思い出に触れることをお許し願いたい。

彼に初めてお会いしたのは1996年、私にとって3回目となるベトナム訪問時のことである。彼はホーチミン市の人民委員会委員長から委員会書記へと進み、40代の若さで政治局員に初抜擢されたタイミングだった。

若いサン国家主席の、国を再興・再建させるその情熱、エネルギーな迫力、志に圧倒されたものだ。直感的に「この男は将来、ベトナムのリーダーになる」と感じたことを覚えている。

私にベトナムを紹介し、教えて下さった故渡辺美智雄先生は「彼はサイゴン大学卒で市場経済にも詳しい。切れ者でいい男だ。だが、年寄りに足を引っ張られる心配があるな」と評されていた。

それで何回目かにお会いした時に「渡辺先生が『長老に引き立てられれば天下を獲れる男だ』と仰っていた。

我々も期待している」と申し上げたらとても喜ばれた。

その後、サン国家主席とは十数回お会いし、突っ込んだ深い話もした。いつか私のことを「親友、親友」と呼んでくださるようになり、私も彼に対し強い友情を感じるようになったのである。

私は渡辺先生を通じ多くのベトナム要人と知り合うことができた。ファン・ヴァン・カイ元首相もそのひとり。彼が共産党経済委員会の委員長だった当時、極秘に来日されたことがある。渡辺先生の個人事務所で3日間、市場経済の勉強をされ、後に計画投資大臣とされた。そのカイさんのことを「よろしく頼む」と仰ったのが、ドイモイ政策の立役者であるグエン・ヴァン・リン書記長。

そしてカイ首相が副首相に抜擢したのが今のグエン・タン・ズン首相である。その前の首相であるヴォー・ヴァン・キエットさんにも渡辺先生と一緒に会いしている。そしてキエットさんの秘書を7年間務めたのが、前号で紹介した新しい副首相のヴァー・ドゥック・ダムさんというわけだ。

2003年以降、中国やインドネシアでSARSや鳥インフルエンザといった感染症が流行した。こうした感染症はアジアの経済発展にとって脅威であると考え「ベトナムに感染症センターを作るべきだ」とカイ首相と当時副首相だったグエン・タン・ズンさんに申し上げた。ところが同国の国立疫学衛生研究所を視察したところ、あまりに施設が貧弱であった。

私はすぐさま自民党幹事長としての代表質問のなかで、小泉純一郎首相に提案を行い、国立衛生疫学研究所高度安全性検査室整備計画(2008年1月完工)をスタートさせた。インフルエンザウイルスの変異を検査するためのバイオセーフティ・レベル3の実験室を整備するもので、10億円の無償援助が実施された。

さて、そのカイさんが日本で旭日大綬章を受章された際(2006年11月)、私の主催でお祝いの会を催して差し上げた。その席上、カイさんに「リーダーとして一番大事なのは何か」と訪ねたところ「徳だ」と即答された。その言葉は未だ深く私の心に残っている。

広範な戦略的パートナーシップ 「晴雨同舟」を体現する関係に

さて今回のサン国家主席来日の一番のポイントは、両国関係がこれまでの「戦略的パートナーシップ」から、事実上の同盟国である「広範な戦略的パートナーシップ」に格上げされたことであろう。私は長く「日越両国はそうあるべし」と主張し続けてきた。

私は17日、迎賓館で開催された懇親会で挨拶を述べさせていただいたのだが、そのなかで「今朝ほど閣下のために筆をとり『晴雨同舟』としたためた色紙を携えて参りました。これからも日越両国は『晴れの日も雨の日も共に力をあわせて、問題を解決していく全面的信頼のパートナーシップを築きあげていきたい』と願っております」と申し上げた。

「広範な信頼関係に基づく戦略的パートナーシップ」。つまり晴れの日も雨の日も手をつないで、共に苦楽を共にしていこうではないか、そしてアジアの平和と安定を日越両国が基軸となって作り上げていこうではないか、という想いを込め「晴雨同舟」とした。同盟国といっても過言ではない信頼関係を構築していきたいと心から願う。

国会演説で「日越大学」に言及 共同声明にも明記

18日に行われたサン国家主席の国会演説には444名もの国会議員が議場に参集した。演説内容はまことに素晴らしく、終了後、スタンディングオベーションの拍手が鳴りやまないため、国家主席が手で抑えるような仕草をされたほどであった。

私は傍聴席から拝聴していたが、その情景を見て、また「日越友好議員連盟の連携と貢献がなくて本日の日越関係はない」という国家主席の一言を聞き、思わず涙が溢れた。

さて、もうひとつ心から嬉しかったのが、私のライフワークともなっ

た「日越大学」に言及してくださったことである。該当部分を演説から抜粋する。

「私は越日大学構想を推進するイニシアチブを高く評価する。越日大学構想、我が国が進めるべき重点大学および職業訓練校の国際標準へのレベルアップを含む優秀大学整備基礎計画案は基本的かつ政策的ステップであり、この協力分野にはまだ多くの潜在性と余地が残されていると考える」。

同日行われた安倍首相との共同声明のなかでも、日越大学構想について両国政府が引き続き協力し推進することが明記された。

前日に各所へ伝達済み！ 実現に向け、また一歩前進

ベトナム政府はそれに先立ち心憎い計らいをしてくださっている。

その前日の17日。ベトナム政府は、グエン・タン・ズン首相名義、ヴー・ドック・ダム副首相の代筆により、日越大学の計画立案に向けて公文書を発行していたのだ。

公文書No.325/TTg-KGVXの概略を以下に紹介する。

No. 325/TTg-KGVX

件名：ハノイ国家大学に属する日越大学の設立方針

宛先：教育訓練省、計画投資省、財務省、内務省、外務省、ハノイ国家大学

1、ハノイ首都に本部を置くハノイ国家大学に属する日越大学の設立方針に同意する。

2、ハノイ国家大学を議長とし、日本側、教育訓練省、計画投資省、財政省、内務省、外務省および他の関連機関の協力を得て、高い品質を有する大学として「日越大学」の設立における事業のF Sレポートを作成することを命ずる。

政府首脳への検討および決定を得られるように提出すべし。

18日、安倍首相夫妻主催の晩餐会で、林芳正農林水産大臣がファム・ブー・ルアン教育訓練大臣に「設立はいつ頃を考えておられますか？」と訪ねたところ「2年後」と回答された。私は「3年以内にハノイ国家大学の中に大学院大学を設立したい」と2月の訪越時にダム副首相およびルアン大臣に話をしてきたが、それが裏付けされたことになる。

東亜総研も積極的に関与 高等職業専門校を工業団地インフラに

さて今後のことであるが、日越大学構想を進めるにあたり環境防災研究所や高等職業専門学校の設立を急ぐべきと考える。

日越大学の設立予定地であるホアラクハイテクパークには日本企業も多く入居することになるであろう。彼らが今後もっとも必要とするのは人材、それも高度な技術を習得し、中間マネージメントを任せられることができる人材である。「職業訓練」は此度の日越共同声明でも強く打ち出されたテーマであった。日越大学構想の一環として、ホアラクハイテクパークだけでなく、むしろ工業団地に立地することがいいのではないか。

大学としてはハイレベルな教育を施すことを柱としているが、企業とすれば「即戦力となる人材を早く世に出してくれ」というニーズもある。そうした民間の声を強く反映するためにも民間ファンドを設立し、政産官学が一体となった大学づくりが必要だと考える。

そのためにも高度な人材の確保を目指している我が東亜総研が一役を担い、ファンド設立、政産官学それぞれを結ぶ橋渡し役をしていきたいものだと考えている。